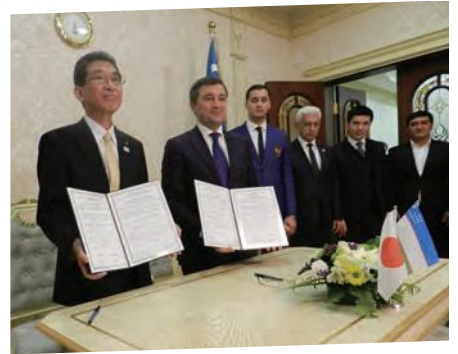


# 東京2020大会 舞鶴市ホストタウン交流の歩み 2016~2021



舞鶴市ホストタウン推進事業実行委員会

---

## 目 次

---

実行委員長あいさつ .....	P 1
ウズベキスタン共和国の概要 .....	P 2
海外引揚が繋ぐウズベキスタンと舞鶴の縁 .....	P 3
舞鶴市・ウズベキスタン交流の歩み	
【2016年】 .....	P 3
日本人抑留者資料館長が舞鶴引揚記念館を訪問	
ウズベキスタンのホストタウンに登録	
駐日ウズベキスタン大使が来鶴	
【2017年】 .....	P 4
ウズベキスタンのオリンピック事前合宿視察団が来鶴	
舞鶴市公式訪問団がウズベキスタンを訪問	
【2018年】 .....	P 6
2020東京五輪ホストタウン推進本部が発足	
舞鶴市ホストタウン推進事業実行委員会を設立	
柔道・レスリングジュニア選手団の合宿を受け入れ	
【2019年】 .....	P 10
ウズベキスタンの日本語学校「Noriko学級」校長が来鶴	
舞鶴市代表団、舞鶴市民訪問団がウズベキスタンを訪問	
柔道代表選手団、レスリングジュニア選手団の合宿を受け入れ	
ウズベキスタン文化芸術訪問団が舞鶴公演を開催	
人材育成交流に関する合意覚書を取り交わし	
【2020年】 .....	P 16
舞鶴市茶栽培調査団をウズベキスタンに派遣	
「Noriko学級」の支援のため、寄付金を募集	
【2021年】 .....	P 17
茶の苗木をウズベキスタンに輸送	
柔道代表選手団オリンピック事前合宿を実施	
舞鶴市長がウズベキスタン独立30周年勲章を受章	

---

※記載の氏名については敬称を省略し、  
職名や組織名等は当時のものとさせていただきます。



## 東京2020大会における舞鶴市ホストタウン交流の歩みについて



本市では、夏季五輪としては日本で57年ぶり2度目となりました東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に伴い、戦後の海外引揚を縁として2016年にウズベキスタン共和国のホストタウンとして決定され、翌年にはレスリング・柔道両競技代表選手団のオリンピック事前合宿地として決定いたしました。

これを受け、同国代表選手団を温かく迎え入れると共に、市民レベルの交流を通じて、スポーツ、文化、経済など幅広い交流を促進する懸け橋となることを目的に、2018年7月に、市内関係各者の連携により実行委員会を設立し、取組を推進してきたところです。

ご存じのとおり、新型コロナウイルス感染症の影響により、オリンピックの開催が1年間延期されるなど未曾有の事態となりましたが、昨夏には、国内の英知を結集し万全の感染防止対策を図り、オリンピック競技大会並びにパラリンピック競技大会が無事開催され、我々に夢と希望と感動を与えてくれたことは記憶に新しいところです。

本市におきましては、コロナ禍の影響により、ホストタウンとして予定しておりましたレスリング代表選手団の事前合宿は残念ながら実施されませんでした。柔道代表選手団の事前合宿の受け入れを行うことができました。コロナ禍のため、市民の皆様と選手団との交流会や練習の見学・サポートなど直接的な交流は断念せざるを得ませんでした。皆様のご協力により、歓迎セレモニーの実施や心温まる贈り物の贈呈、応援動画の制作、保育園の子どもたちの声援など、感染防止対策を徹底した形による交流を深めていただき、選手団の皆様にも大いに喜んでいただけたものと存じます。

大会本番では、男子90kg級のボボノフ選手が見事銅メダルを獲得されるなど、事前合宿も成功のうちに実施できたものと喜んでおり、これも偏に市民の皆様のご理解とご協力の賜物であり、改めまして心から厚く感謝申し上げます。

つきましては、ここにこれまでのホストタウン交流の経過をとりまとめた「舞鶴市ホストタウン交流の歩み」を作成いたしましたので、是非ご覧ください。

実行委員会といたしましては一定の役割を終えますが、ホストタウンの取組を通して築き上げられたウズベキスタンとの絆をオリンピック・レガシーとして、今後は同国とのレスリングや柔道をはじめとしたスポーツや、文化、産業など様々な分野における交流の継続・発展に協力してまいりたいと存じますので、市民の皆様方におかれましても変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年3月

舞鶴市ホストタウン推進事業実行委員会

実行委員長 内藤 行雄



## ウズベキスタン共和国の概要 (首都：タシケント市)

Republic of Uzbekistan

ウズベキスタンは日本からおよそ6,400km離れた中央アジアに位置しています。

面積は日本のおよそ1.2倍、人口は約3,390万人、1991年のソビエト連邦崩壊に伴い独立した国で、世界に2つしかない「二重内陸国」の1つで、海へ出るためには2つ国を越えなければなりません。

国内の都市としては、首都タシケントのほか、ティムール帝国の繁栄を今に伝えるサマルカンドを始め、シルクロードのオアシス都市、ブハラやヒヴァなどの世界遺産都市があります。

2016年1月、首都タシケント市内の日本人抑留者資料館のジャリル・スルタノフ館長が舞鶴市を訪問したことがきっかけでウズベキスタンとの交流が始まり、同年6月に東京2020オリンピックにおけるホストタウンに登録されました。

その後、スポーツ・文化・経済等の様々な分野で交流を続け、2021年には同国の柔道代表選手団が舞鶴市を訪れ、東京2020オリンピックの事前合宿を実施しました。

シベリア抑留と海外引揚との関係を礎に、舞鶴市訪問団とウズベキスタン訪問団の往来による相互交流、次代を担う青少年同士の交流、地方レベルにおける農業・産業・福祉の人材育成交流など、6年間で紡いできた親密な友好関係を交流の歩みとともにご紹介いたします。





## 海外引揚が繋ぐウズベキスタンと舞鶴の縁

第二次世界大戦後、ウズベキスタンには約25,000人の日本人抑留者が送られました。

雨が少なく乾燥し、夏は最高気温が40度、冬は最低気温がマイナス20度にもなる、大変厳しい環境の国の中で、日本人抑留者は水力発電所や学校などの建設に従事しました。

中でも、第四ラーゲル（収容所）の457名の抑留者により1945年～46年にかけて建設された国立「ナボイ劇場」は、1966年に首都タシケントで発生し、周囲の約7割もの建物が倒壊した大地震にも耐え、家を失った人たちの避難所として活用されるなど、多くの命を救いました。

その懸命な日本人の仕事ぶりが、ウズベキスタンの人々に深い感銘を残し、日本人のイメージとなって、今の日本に対する友好的な気持ちにつながっています。

そのナボイ劇場を建設した日本人抑留者のほとんどが、舞鶴港に引き揚げられており、舞鶴とウズベキスタンは海外引揚を通じた深い縁があります。

第四ラーゲルで隊長をつとめた永田行夫さん（故人）は、帰国時、ソ連の検閲でメモを没収されるため、隊員全員の住所、名前をすべて暗記し、上陸した舞鶴で書き起こした名簿をもとにタシケント第四ラーゲル会を結成。昭和24年から平成21年まで、毎年、会を開催しました。平成3年の舞鶴開催時には、引揚記念公園に、桜を植樹されています。



## 舞鶴市・ウズベキスタン交流の歩み

### 2016年

- 1月** ジャリル・スルタノフ日本人抑留者資料館長が来日、引揚記念館を訪問し、日星高校ら中高生等と交流  
大阪在住のラーゲル会・新家苞（にいのみ・しげる）氏と面会
- 2月** 舞鶴市長が、トゥルスノフ駐日大使にオリンピック事前合宿を要望
- 4月** 教育委員会栄養教諭2名がウ国大使館員からプロフ作りを伝授
- 6月** 東京2020五輪におけるウズベキスタンのホストタウンに決定
- 9月** 日星高校生徒が、文化祭でプロフ※を提供
- 10月** 市内全小学校の給食でウズベキスタン料理を提供
- 11月** トゥルスノフ駐日大使が舞鶴を訪問、体育館や引揚記念館を視察、小学校児童とウズベク給食
- 12月** ウズベク人国際交流員の市役所配置を国に要望



スルタノフ館長の舞鶴訪問



小学校給食でプロフ※を提供



トゥルスノフ駐日大使による市長表敬



小学生の歓迎

※プロフ…米、羊肉、人参、玉ねぎなどを炊き込むウズベキスタンで代表的な米料理

## 2017年

5月 ウズベキスタン国家オリンピック委員会からレスリング・柔道の事前合宿内定の連絡

5月 舞鶴市が日本人抑留のドキュメンタリー映画「ひいらぎ」の上映権を取得

5月 永田立夫氏が引揚記念館を訪問、「タシケント第四ラゲル会」旗を寄贈

8月 ウズベキスタン人国際交流員が着任 (レ・アルトゥル)

8月 ウズベキスタンのオリンピック事前合宿視察団が舞鶴を訪問

- 事前合宿の予定施設である舞鶴文化公園体育館を訪問し、メインアリーナやサブアリーナ、トレーニングルーム、柔道場、競技設備 (レスリングマット・柔道畳) などを視察。
- 舞鶴市内の練習場を訪れ、舞鶴市レスリング協会と舞鶴柔道連盟の教室に通う子どもたちの練習風景を見学。



レスリング練習風景を見学



柔道畳を確認した後、柔道競技者と交流

- 南公民館で市民と交流 (市民による歓迎、ウズベク国旗をモチーフにした千羽鶴の贈呈)
- 舞鶴引揚記念館を訪問し、引き揚げに関する資料の見学及び朝来・大浦小学校、若浦中学校の児童生徒らと交流。



市民からの温かい歓迎 (南公民館)



千羽鶴を贈呈 (南公民館)



大漁旗を贈呈 (引揚記念館)



**8月** 市役所を訪問し、舞鶴市とウズベキスタンレスリング協会及び柔道連盟との間で、東京2020オリンピックの事前合宿実施にかかる覚書を取り交わし



レスリング協会との覚書取り交わし



柔道連盟との覚書取り交わし

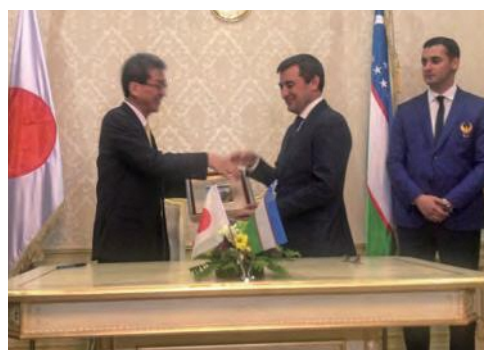
**10月～11月** ウズベキスタン展を開催（赤れんが3号棟）

**11月** 市長を団長とした公式訪問団がウズベキスタンを訪問

- 日本人抑留者（タシケント第四ラゲル457名）が建設に関わったナボイ劇場を視察。
- タシケントで亡くなった79名の日本人が眠っているヤッカサライ日本人墓地を墓参。
- ウズベキスタン国家オリンピック委員会を訪問し、東京2020オリンピックのレスリング及び柔道の事前合宿実施に関する覚書を取り交わし（調印式には、同委員会の会長で副首相のスルタノフ氏と体育スポーツ省のクルバノフ大臣が出席）。



日本人抑留者資料館長  
スルタノフ氏と再会



オリンピック委員会との覚書取り交わし



ナボイ劇場を視察

## 2018年

2~3月

リサイクル柔道衣支援事業を実施

タシケント市・ヤッカサライ区の子どもたちに柔道衣を送付。市内の中学・高校及び市民に対し、不要になった柔道衣の提供を呼びかけた結果、107着の柔道衣が集まった（配分はヤッカサライ区に57着、オリンピック委員会に50着）



提供された柔道衣



発送準備作業

4月 2020東京五輪ホストタウン推進本部が発足

7月 舞鶴市ホストタウン推進事業実行委員会を設立

ファジロフ駐日大使が舞鶴を訪問、引揚記念館や赤れんがパークを視察



市長表敬



引揚記念館で市民と交流する大使



赤れんがパークを視察





## 8月 ウズベキスタンからオリンピック委員会及び柔道・レスリングのジュニア選手団が来日し、舞鶴文化公園体育館で合宿を実施

### 【来訪者】

- ・オリンピック委員会：1名(団長)
- ・柔道チーム：7名(コーチ1名・選手6名)
- ・レスリングチーム：7名(コーチ3名・選手4名) 計15名

### 【東京日程】

8月16日(木) ・オリンピック委員会、レスリングチーム 成田空港着・都内に移動

8月17日(金) ・柔道チーム 成田空港着・都内に移動

・レスリングチーム 都内大学(専修大学)との合同練習

8月18日(土) ・都内大学との合同練習(レスリング：専修大学、柔道：早稲田大学)

- 16日にオリンピック委員会とレスリングチーム、17日に柔道チームが成田空港に到着。
- 17日、レスリングチームは専修大学レスリング部の練習に参加し、同じくこの練習に参加していた明治大学・青山学院大学・法政大学レスリング部及び同世代の中国代表チームとともに汗を流した。レスリングフリースタイルのオリンピックや全日本王者、世界選手権入賞者などが参加する非常にレベルの高い練習内容だった。
- 18日、レスリングチームは前日と同様に専修大学の練習に参加し、柔道チームは早稲田大学柔道部の練習に参加。柔道は、首都大学東京も参加し、全国レベルの選手もいたため、非常に有意義な練習になった。



専修大学の練習に参加するレスリングチーム



早稲田大学の練習に参加する柔道チーム

【舞鶴日程】 ※8月19日・23日は移動日、24日に全メンバーが帰国。

- 8月20日(月) [AM] 市内視察(引揚記念館 等)  
[PM] 市長表敬訪問
- 8月21日(火) [AM] 市内視察(舞鶴で海水浴)  
[PM] 合同練習(文化公園体育館 アリーナ…レスリング、柔道)  
市民交流会
- 8月22日(水) 合同練習(文化公園体育館 アリーナ…レスリング、柔道)

- 19日夜に舞鶴入り。
- 20日午前中には、ウズベキスタンとの交流のきっかけとなった引揚記念館を訪問。日本人抑留に関する史料やウズベキスタン関係の展示品等を見学。午後には、市長表敬訪問にて多々見市長と面談した。多々見市長は「今回の訪問を契機として、市民レベルでの交流に広がることを期待している」、オリンピック委員会のオディロフ シロジディン団長は「これから様々な交流を通じて関係を発展させていきたい」と述べた。
- 21日、22日には空調設備が整った舞鶴文化公園体育館アリーナにレスリングマットと柔道畳を設営し、計3回にわたり両競技の練習を行った。練習には市内競技者をはじめ、自衛隊や近隣市の高校などからも多くの選手が参加し、合同練習が実現。レベルの高い練習に柔道、レスリングチームとも満足した様子であった。
- 21日の夜には、日星高校の食堂を会場に市民交流会を開催。地域住民や柔道、レスリングの競技者、関係者とともに食事やミニゲームを楽しんだ。



市長表敬での記念品交換



市民交流会



レスリング合同練習



柔道合同練習



## 10月 ウズベキスタンからジャリル・スルタノフ日本人抑留者資料館長一行が舞鶴を訪問

- 4日、ジャリル・スルタノフ館長及びご家族計5人が来鶴、市長表敬を行った。スルタノフ館長は「抑留者が帰国した時のうれしさなど様々な感情を映画で伝えたい」と述べた。
- 舞鶴東ロータリークラブ例会に参加し、スルタノフ館長が「引揚が繋ぐウズベキスタンと舞鶴の縁」について講演した。
- 舞鶴かまぼこ協同組合にて、「舞鶴かまぼこ」作りにも挑戦した。
- 2016年から交流のある日星高校で歓迎と交流のための夕食会に参加。
- 5日、日星高校の文化祭に参加。ご令孫のリソラットさんとモヒナボヌさんが、ウズベキスタンの民族舞踊を披露。
- 大浦小学校を訪問し、6年生児童12人と「プロフ」「ガロフスープ」などウズベキスタン料理の給食で交流。
- 特別養護老人ホームグレイスヴィルまいづるを訪問。日本における超高齢社会の課題や介護の現状について説明を受け、スルタノフ館長は熱心に話を聞いていた。
- 市政記念館のカフェで行われた市民有志交流夕食会に参加。親睦を深めた。
- 7日、舞鶴市が定めた「舞鶴引き揚げの日」を初めて迎えたこの日、引揚記念公園で平和祈念式典を開催。一行も来賓として参列。
- そのほか、日本人抑留者ドキュメンタリー映画「ひいらぎ2」撮影のため、五老ヶ岳公園や引揚記念公園、平引揚棧橋を視察したほか、引揚ゆかりの港めぐり遊覧船に乗船した。



市長表敬



日星高校歓迎夕食会



日星高校文化祭



大浦小学校で給食交流



抑留に関する資料を寄贈



遊覧船から舞鶴湾を撮影

## 2019年

### 1月 ウズベキスタンで無料の日本語学校を運営するナジロフ・ガニシェル氏が舞鶴市を訪問

- ウズベキスタン・リシタン市の日本語学校「Noriko学級」で日本語教育と日本との交流に尽力されている同氏が、2018年12月31日から2019年2月16日までの訪日期间中に、舞鶴市内の「Noriko学級」支援者訪問に併せ、同国のホストタウンとして交流している舞鶴市役所訪問を希望。
- 9日、赤れんが博物館、引揚記念館を見学後、山口副市長と面会、関係課職員と懇談。リシタン市で日本語を勉強する若者の舞鶴への留学・就労受入れなど、今後の人的交流の可能性について意見交換。



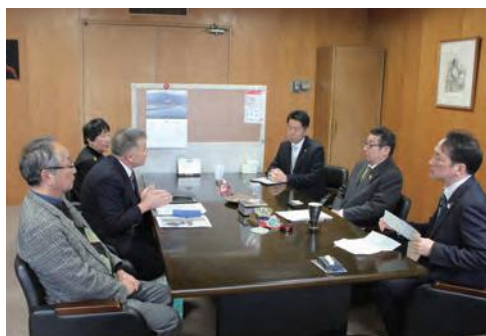
赤れんが博物館



引揚記念館



山口副市長とナジロフ・ガニシェル氏



副市長・関係者と懇談

### 5月 ナジロフ・ガニシェル氏が舞鶴市を再訪問

- 15日、舞鶴市役所を再訪問し、市長と面会。ガニシェル氏からは、「Noriko学級」について市長に説明し、リシタン市長からの手紙を市長に手渡した。
- 市内の茶園や介護専門学校、近畿職業能力開発大学校京都校を訪問し、関係者と交流。



市長表敬



専門学校の先生と交流



介護施設で入居者と面会

## 8月 市代表団・市民訪問団がウズベキスタンを訪問

### 【代表団・訪問団】

舞鶴市代表団： 6名（団長：多々見舞鶴市長）

舞鶴市民訪問団：29名（団長：水嶋日星高校校長）

### 【日程】

2019年8月6日（火）～13日（火）

- フェルガナ州コーカンド市で日本人墓地を参拝。（ウズベキスタンでは812名の日本人抑留者が亡くされており、コーカンド市の日本人墓地には、240名の御霊が眠っている）



- 日本語学校「Noriko学級」を訪問し、生徒たちと交流。



- 柔道・レスリング関係者とオリンピック委員会を訪問し、ルスタム委員長ほか、レスリング協会、柔道連盟の代表と面談。



8月 柔道代表選手団・レスリングのジュニア選手団が来訪し、舞鶴文化公園体育館で合宿を実施

【来訪者】

- ・柔道チーム：15名  
(内訳：コーチ3名、選手10名、トレーナー1名、マネージャー1名)  
※8/25～9/1の間、日本武道館で開催される2019年世界柔道選手権大会に出場する選手で構成。
- ・レスリングチーム：10名(内訳：コーチ2名、選手8名)  
※世界カデット選手権優勝者、アジア大会・国内大会の優勝経験者で構成。

【舞鶴日程】 ※8月16日(金)に成田空港到着、夜間舞鶴入り。

- 8月17日(土) (柔道) 練習  
(レスリング) 海水浴、引揚記念館等 市内視察
- 18日(日) (柔道) 練習  
(レスリング) 練習
- 19日(月) 練習、市長表敬、市民交流会
- 20日(火) (柔道) 練習、市内視察  
(レスリング) 練習、京都視察、成田に移動
- 22日(木)
- 23日(金) (柔道) 東京に移動 ※以降、世界柔道選手権に大会に出場  
(レスリング) 帰国

- 文化公園体育館アリーナを会場として柔道畳を2面(レスリングマットは3面)設営。
- 初日の練習会開始前には、舞鶴の柔道選手とウズベキスタンの柔道選手団が畳の上に整列し、ミニセレモニーを行い、舞鶴柔道連盟の畠山会長は「ウズベキスタンの高い技術や、練習方法などを学びたい。東京オリンピックには、舞鶴柔道連盟として、全力でウズベキスタンの選手団をサポートしたい」と挨拶。柔道の練習会には、市内の柔道教室に通う児童や柔道連盟の選手、海上自衛隊からも選手が参加し、両国選手にとって有意義な練習となった。
- リオデジャネイロオリンピックで銅メダルを獲得したウロズボエフ・ディヨルベック選手は、「柔道は日本の武術ですが、ウズベキスタンでもとても人気がある。世界選手権前に舞鶴で事前合宿ができたことで、日本の気候に体を慣らすことができ、とてもよかった」とコメント。



柔道練習の様子



- レスリングの練習には、市内のレスリングクラブから多くの児童が参加。選手の中には、2019年世界カデット選手権の優勝者やアジア選手権の優勝者などがおり、世界トップレベルの選手から直接技術を学んだ。
- 市内のレスリング選手からは、「言葉は通じなくても動きや表情で伝えることができた。ウズベキスタンの選手と世界の舞台で戦えるよう頑張っていきたい」、ウズベキスタンの選手からは「舞鶴の子どもたちはとても礼儀正しい。スポーツに限らず、日本といろいろな交友を深めていきたい」とコメントがあった。



レスリング練習の様子

- 市長表敬訪問では、多々見市長は「選手団の皆さんが来訪することを市民は心待ちにしていた。舞鶴では楽しい時間を過ごしていただき、市民の温かい心に触れていただければ嬉しく思う」、柔道代表選手団のメインコーチであるツラエフ・ファルホド氏は「舞鶴市民の温かい対応にとっても感謝している。選手は充実した環境で練習ができている」、レスリング選手団のコーチであるカガルマノフ・アヒメト氏は「引揚から始まった縁を大切に今後とも交流を続けていきたい」と述べた。



市長表敬



市長表敬

- 市民交流会には、スポーツ関係者、文化関係者、引揚記念館関係者、舞鶴市民応援団、地域住民など幅広い分野から120名を超える市民が参加。餅つきや琴演奏披露などの日本文化に触れていただいたほか、選手と市民との間で写真撮影をするなど交流を楽しんだ。



市民交流会の様子



市民交流会の様子

## 11月 **ウズベキスタン文化芸術訪問団が来訪し、舞鶴公演を開催**

○訪問団構成：計33名

（文化大臣を含む公式メンバー5名、ナボイ劇場団員20名、アンサンブル6名・歌手1名・監督1名）

○公演内容：バレエ、オペラ楽曲、ウズベク民踊など



舞鶴公演の様子





## 12月 フェルガナ州リシタン地方との人材育成交流に関する合意覚書を取り交わし

### 【日程】

2019年12月16日(月)

### 【交換相手】

ソリエフ・スフホンジョン リシタン地方長官

### 【覚書の内容】

- ① 茶栽培の普及に向けた人材育成
- ② 介護福祉人材の育成
- ③ 産業技術人材の育成



覚書取り交わしの様子

## 12月 ミルジヨーエフ大統領の来日に伴う内閣総理大臣主催晩餐会に舞鶴市長が出席

## 2020年

**2月** リシタン地方との人材育成に関する覚書に基づき、舞鶴市茶栽培調査団を派遣

**7～8月** 「Noriko学級」の運営継続支援のため、寄付金を募集

- 新型コロナウイルス感染症の影響で学校の運営が困難な状況であるとの情報を受け、「Noriko学級」の運営を少しでも支援しようと、「Noriko学級を支援する会」代表の永田立夫氏が募金活動を開始。

本市は、この活動に賛同し、多方面へ募金への協力を呼びかけたところ、市内外から予想を上回る大きな反響があり、642,254円の募金が集まった。

**12月** 「Noriko学級」生徒が来訪、近畿職業能力開発大学校京都校を受験

【訪問者】

- ① イシモイロフ・イザティロ
- ② イギタリエフ・シャフゾッド
- ③ トジボエフ・ミルゾラフマツト
- ④ ボボエフ・ハミドゥロ



「Noriko学級」生徒

## 2021年

1～6月 ホストタウン応援動画「オルガ・ウズベキスタン」を制作

【制作動画】

- ① 市民・団体からの投稿動画
- ② 舞鶴市とウズベキスタンの交流の歩み紹介動画
- ③ 小中高校生の合同合唱団によるウズベキスタン共和国国歌斉唱動画



市民・団体からの投稿動画

2月 舞鶴市長とリシタン地方長官とのオンライン会談、産業技術人材育成に関する覚書交換

2月～ 「Noriko学級」で「舞鶴ーウズベキスタン～抑留から交流へ～」常設展示

3月 リシタン地方との人材育成に関する覚書に基づき、茶の試験栽培のための苗木輸送

【輸送品目】

- ① 苗木 さやまかおり、ふくみどり
- ② 種子 さやまかおり



輸送のための準備作業



輸送前の苗木

**4月** ウズベキスタン産業技術人材・介護福祉人材育成支援制度を創設

**6～8月** 「ウズベキスタン展 in ホストタウン舞鶴」を開催

**7月** ウズベキスタン共和国「お国紹介セミナー」を開催



駐日ウズベキスタン大使館（書記官）が説明

## **7月** ウズベキスタン共和国柔道代表選手団オリンピック事前合宿を実施

### 【来訪者】

・柔道チーム：29名

（内訳：正選手10名、パートナー選手9名、柔道連盟会長1名、コーチ・マネージャー・医者等9名）

【舞鶴日程】 ※7月12日（月）に成田空港到着、7月13日（火）AM2：20頃に舞鶴到着。

7月13日（火）	【AM】 休憩	【PM】 練習
14日（水）	【AM】 歓迎セレモニー	【PM】 練習
15日（木）	【AM】 練習	【PM】 練習
16日（金）	【AM】 練習	【PM】 練習
17日（土）	【AM】 練習	【PM】 練習
18日（日）	【AM】 練習	【PM】 練習

※パートナー選手等11名は帰国。

19日（月）	【AM】 出発式、選手村に移動	【PM】 選手村到着
--------	-----------------	------------



### 【新型コロナウイルス感染症対策】

- 合宿期間中は文化公園体育館を選手団の練習会場として貸切対応。
- 選手団には毎日PCR検査（スクリーニング検査）を実施。
- アテンド者、宿泊ホテル従業員、バス運転手、関係スタッフは事前にワクチンを2回接種。期間中は、必要に応じた頻度でPCR検査を実施。
- 選手団の移動は、宿泊ホテルと練習会場のみとし、外出禁止。
- 宿泊ホテルはフロア単位で貸切（食事会場も貸切）。一般客と動線分離、共用施設は使用禁止。
- 市民との交流イベントはなし。選手団の練習見学不可。
- 取材日時を限定し、方法（事前申込制、動線、取材エリア）を設定。

### 【練習会場】

- 体育館の1階アリーナに、国際基準を満たした柔道畳を2面設置。
- 選手の要望に応じ、体育館の2階トレーニング室、屋外多目的グラウンド（体育館裏）を貸切。

### 【食事】

- 来日前に食事の要望を聞き取り、必要な食材や料理を調達。
- 同国の料理人を招き、食事の一部はウズベキスタン料理を提供（期間中は、宿泊ホテルの厨房を貸切使用）。



宿泊ホテルでウズベク料理を堪能

【来日～事前合宿期間中の主な行事】

- 12日(月)、成田空港に到着した選手団一行は、空港内での検査を全員陰性で通過し、貸切バス(2台)で舞鶴へ移動。13日(火)午前2:20頃、舞鶴に到着した。



選手団が成田空港に到着

ホテル前では、市長をはじめ、市職員や関係者約30名が「舞鶴へようこそ。」とウズベク語で書かれた横断幕を掲げて歓迎。長旅にも選手は疲れた様子を見せず、笑顔で手を振って応えていた。



ホテル前で選手団を歓迎

- 13日(火)、選手団の疲労を考慮し、当初予定されていた午前の練習は中止。午後に来日後初となる練習を行い、柔道畳の感触を確かめた。



練習前のアップの様子



- 14日(水)、コロナ対策を徹底した上で歓迎セレモニーを実施。セレモニーでは、選手1人ひとりの紹介・入場から始まり、市内小中高校生の合唱団によるウズベキスタン国歌斉唱動画の放映や日星高校チアリーディング部による歓迎パフォーマンスの実演などを行った。選手団は、立ち上がって拍手を送ったり、セレモニーの様子を撮影したりするなど、終始リラックスした様子だった。



歓迎セレモニーの様子

- 15日(木)、練習会場とホテルの往復に行動が制限された選手団を応援しようと、昭光保育園の園児約40人が練習帰りの選手団を乗せたバスに向かって園内から大きな声援を送った。選手団はバスから手を振って笑顔で応えていた。



園児が選手団を応援

- 19日（月）、市民や市職員約200人が参加し、市役所庁舎前でオリンピックの地に向かう選手団の出発式を実施。多々見市長は、「選手団が順調に練習できたことに安堵の気持ちでいっぱいです。選手の努力が実るよう市民みんなで応援しています」と激励し、ウズベキスタン柔道連盟のカミロフ会長は「とても良い環境でしっかりと準備ができました。舞鶴の皆さんの温かい歓迎に感謝します」とお礼を述べた。



いざ、オリンピックの大舞台へ

### 【合宿期間中の練習】

- 13日（火）、14日（水）以外は、午前と午後の2部練習を実施。練習前には、選手がリフレッシュできるよう、ミニサッカーやバレーボールに興じる姿もあった。
- オリンピック本番前の怪我を防ぐため、期間中は追い込んだ練習をせず、主に体重調整や技の確認を行っていたが、乱取りでは、オリンピック選手ならではの豪快で華麗な技の数々が見られた。
- パートナー選手や専属のコーチが各選手の練習をサポート。特に減量が厳しい軽量級の選手にはコーチが付きっきりになって一緒に汗を流していた。
- 選手の体重調整のため、トレーニング室や屋外グラウンドでランニングをするなど、練習会場を効果的に使用していた。





代表選手の練習

○柔道男子90kg級代表 ダヴラト・ボボノフ選手が銅メダルを獲得

ボボノフ選手は、3回戦で惜しくも敗退したが、その後の敗者復活戦を勝ち上がり、3位決定戦ではトルコの選手に体落としによる1本勝ちを収め、見事銅メダルを獲得した。



©2021 ウズベキスタンオリンピック委員会

## 11月 市内3団体がホストタウン功労者表彰を受彰

ホストタウンの取組に特に顕著な功績のあった3団体に対し、東京オリパラ担当大臣から感謝状が贈られた。

### 【被表彰団体】

- ・ホストタウン舞鶴市民応援団
- ・学校法人聖ヨゼフ学園 日星高等学校
- ・南福祉協議会



市長と受彰者の皆様

## 12月 舞鶴市長が「ウズベキスタン共和国独立30周年勲章」を受章

ウズベキスタン共和国政府から、両国の友好親善に寄与した功績をたたえ、舞鶴市長に対し“ウズベキスタン共和国独立30周年勲章”が授与された。

### 【授与式】

- ① 年月日 2021年12月5日(日)
- ② 場 所 駐日ウズベキスタン共和国大使館
- ③ 授与者 アブトゥラフモノフ・ムクシフジャ特命全権大使
- ④ 今回の受章者(7名)

- |            |       |
|------------|-------|
| ・舞鶴市長      | 多々見良三 |
| ・筑波大学学長    | 永田 恭介 |
| ・東洋大学総長    | 福川 伸次 |
| ・東洋大学学長    | 矢口 悦子 |
| ・名古屋経済大学学長 | 佐分 晴夫 |
| ・東京農工大学准教授 | 川端 良子 |
| ・北海道大学准教授  | 樋渡 雅人 |



勲章を授与された多々見良三舞鶴市長

舞鶴市ホストタウン交流の歩み

2022年3月 印刷

発行 舞鶴市ホストタウン推進事業実行委員会

(事務局：舞鶴市市民文化環境部スポーツ振興課内)

〒625-8555 京都府舞鶴市字北吸1044

電話0773-66-1058

印刷 株式会社 モトキ